

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

## 無人嶋談話・上

曾, 槃

---

無人嶋談話

上









香粧へ余儀を初め、御遊遊力、漸消るる  
 こと日しるるに申二月、あつと云ふに、あつと云ふ  
 地のう、のろを、此處、御守村、お男、三喜、誠、  
 傷、有、要、衣、を、漸、く、し、れ、は、を、移、し、衣、付、つ、け、  
 揚、海、を、穿、し、し、る、を、前、に、懸、け、し、重、信、を、衣、せ、ら  
 ば、り、余、山、を、下、つ、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 揚、州、を、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 當、た、し、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 揚、州、小、浦、一、お、多、住、り、後、子、衣、入、り、し、り、  
 一、日、を、舟、に、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 早、船、う、る、る、舟、小、舟、を、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 是、等、み、り、念、の、儀、を、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 朝、の、儀、を、あ、つ、と、云、ふ、事、也、と、云、ふ、事、也、  
 石、の、穴、小、舟、を、穿、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 斗、に、お、女、を、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 へ、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 舟、一、お、多、住、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 珍、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 朝、記、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 以上へ、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、









を以て海に浦のたに宿りて候なりしにうら海  
の浪は磯をこりて上へは岸を離れし程に切なりし  
に近きに冬にうらして一處にさかきりてを採り  
画のうら海を遠くし中宿をえり然るに石  
匠のやうにあたりてをえりていへり人の  
を採りてえりて其奥のせれえりて究りていへり  
是のうら海の中は磯をえりて風のうら海に  
かゝりては石匠を採りて磯をえりていへり  
かゝりては磯をえりて磯をえりていへり  
元のみりては磯をえりて磯をえりていへり  
左に世に究りては磯をえりて磯をえりていへり  
あえりては磯をえりて磯をえりていへり  
かゝりては磯をえりて磯をえりていへり  
書をえりては磯をえりて磯をえりていへり  
かゝりては磯をえりて磯をえりていへり  
一宿りしに磯をえりて磯をえりていへり  
而して磯をえりて磯をえりていへり  
二月は磯をえりて磯をえりていへり  
七月は磯をえりて磯をえりていへり





少程之 撒使 年 長 為 流 所 合 進 手 亦 不 道 之

折 處 一 金 龍 力 亦 成 之 諸 所 是 諸 所 宜 在 所

也 所 幸 之 今 亦 宜 成 之 諸 所 是 止 有 此 之 中

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之

祀 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之 亦 宜 之





鳥窠並大鳥之図































後より行方不人亦幸居之天地之奇也  
主祇化也わわ米のそと穂化の春多の豊を  
落穂草非う落しん水拵をそ人の身をも  
指さう海をい又浦う田舎ししを水、水ひ  
艱難の中をそく流石もそくそ能を虎とそ  
魚の取之取の 宿業のそくそく 孫ん

一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石  
拾得り辰巳の神と云ふは、石を折るに、石を折らんと  
少た八の敷見の石をそくそくそくそく

一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石

一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石  
一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石  
一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石  
一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石

一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石  
一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石  
一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石  
一 山を山と云ふは、先年船南流す前子雲乃石







一 乃 船 渡 戸 船 少 々 形 示 じ け ぬ 船 之 不 力 也 云

は 入 入

一 船 此 止 船 不 石 多 々 船 之 水 深 也 是 其 船 多 々

水 大 船 是 云

一 此 等 の 中 の 方 へ 淺 く 南 西 へ 之 船 少 船 亦 船 渡 寺

有 入 入 南 風 之 船 船 多 々 船 之 水 深 也 是 其 船 多 々

船 之 水 深 也 是 其 船 多 々 船 之 水 深 也 是 其 船 多 々

船 之 水 深 也 是 其 船 多 々

Shan Duiang Shan Duiang

子 島 船 渡 寺 船 渡 寺 船 渡 寺

長 年 船 渡 寺 船 渡 寺 船 渡 寺

〇 船 之 水 深 也

〇 船 之 水 深 也

〇





無人寫談話目次

上卷

放洋始末

下卷

地畝

氣候

烟兒

食料

倉名

附錄

方位

物產

服飾

習材

上列船漂落記用  
遠列船漂落記事

大坂船漂落記用  
江戸船漂落記事

無人島談話上卷

薩摩仔醫

曾繁識

放洋姑終

日向の事 諸縣の事 志布志園 運船 同所

小舟の事 船長と事 運貨と事 日向の事 船を業

と事 船主の事 中山 屋三の事 眼小寛又元年

己酉の歲十月 檣師一人 水手三人 都て四人を雇

ひし事 本年 水手 八土師 船を業 胡麻 魚 此 甚 色 質

歎 同 月 二 十 九 日 風 便 空 しく 多 風 倉 妻 子 之 弟 視

族 した 事 多 事 属 して 事 決 須 風 下





くもを霞のうらみ 河津御のうらみ

雲の如くうらに 瀬港のうらみ 雨来雲の如く

えん比画凡と平 乱候の御雷地 十

里もく 放洋の流り 雨小のうらみ 雲の如く

向の山々 雲の如く 雲の如く 雲の如く

して世をうらみ 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く

雲の如く 雲の如く 雲の如く 雲の如く















鷹北象(り) カウチ 一ニ里。うらひ 二甲(り) カウチ 一

此の所は 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。

此は 大船(り) カウチ 三ノウラハ。 鯨魚の 唾を 見るを云ふ。









両岸の神をいひのり。天水がくるといふり。四外天山の

神社。これ人形なり。自給入妙。抄此の如し

て生還の期も短しえり。これ高儀にて。天明

策。三船渡落の姓は。新倉居住。豊前。江戸洋

新渡樺の工。右岸にまゝし。江戸洋

をまゝ鋸一口かけ。中。江戸洋

洞院の中に藏。標。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋

江戸洋。江戸洋。江戸洋













由りて。甚だ。重後を。と。路に。り。に。是  
 府の。小。属。し。物。産。を。移。に。送。更。代。属。し。て  
 之。に。賽。願。の。と。ゆ。は。伊。勢。伊。呂。守。の。西。河。へ。  
 ゆ。て。と。と。を。食。國。恩。を。い。と。ん。揚。と。し。て。玉。河。の  
 船。ゆ。て。ゆ。子。ゆ。に。ゆ。者。に。あ。と。ふ。き。考。の。ま。ゆ。  
 是。人。と。ゆ。こ。れ。を。還。魂。の。漢。と。い。ふ。

無人島談話上巻終



